



# 青年国際交流 2020 International Youth Exchange

「新しい“道”を私がデザインするために」



# 一歩踏み出せば、 人生はもっと豊かになる



内閣府青年国際交流事業は、国際社会・地域社会で活躍する次世代のリーダーを育成することを目的とし、国際的課題についてのディスカッション能力の向上や、国際社会での実践力の向上を図る、青年人材育成プログラムです。

## 内閣府が実施する6つの青年国際交流事業



「東南アジア青年の船」事業
「世界青年の船」事業
国際社会青年育成事業
日本・中国青年親善交流事業
日本・韓国青年親善交流事業
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」



# 事業に参加すると、こんなことが身に付きます！

## ■ 社会・文化の違いを超えて、対話する能力

私が学んだことは「対話の重要性」。対話を通して新たな発見が沢山あり、今は東南アジアの全ての国がキラキラして見えます。

⇒清水万由さん（2018年度東南アジア青年の船事業参加者）の感想はP.4へ



現地で、人々と目を合わせ、直接話を聞く。そこには、テレビや新聞越しではない、ありのままの中国の姿がありました。

⇒二口朝香さん（2018年度日本・中国青年親善交流事業参加者）の感想はP.10へ



## ■ 日本の良さ等を自分から対外的に発信する能力

船上では、書道などの日本文化を世界に発信するなど、自分のやりたい活動ができました。自分から発信し、環境を提供し、思いを実現することの大切さを学びました。

⇒椿竜太郎さん（2018年度世界青年の船事業参加者）の感想はP.6へ



## ■ 国を超えた共通の社会課題に向き合う能力

一番心に残っている言葉は“Youth Power”。「青年同士が国を超えて結束すれば、社会を変えられるのでは」。そう思わせるほど、議論の場は熱意と変革への希望に満ちあふれていました。

⇒入江さくらさん（2019年度国際社会青年育成事業参加者）の感想はP.8へ



「教育と児童福祉の連携を探りたい」。ニュージーランドの青少年育成に触れ、普段の自身の活動を相対化することができました。

⇒渡邊大介さん（2018年度地域コアリーダープログラム参加者）の感想はP.14へ



## ■ 外国青年とのネットワーク

私たちの団テーマは「情で広げる笑顔の“わ”」。韓国の青年と以前から知っていたかのような友人になることができました。

⇒須摩彩さん（2019年度日本・韓国青年親善交流事業参加者）の感想はP.12へ





グループごとにアイデアをわかりやすくまとめる参加青年たち(情報とメディアグループ)

# 「東南アジア青年の船」事業

## Ship for Southeast Asian and Japanese Youth Program (SSEAYP)

「東南アジア青年の船」事業は、1974年のインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ各国（当時のASEAN5か国）との首脳会談による共同声明に基づき、ASEANと日本による青年国際交流の共同事業として開始したものです。1995年からブルネイ、1996年からベトナム、1998年からラオス、ミャンマー、2000年からカンボジアが参加し、これらASEAN各国の協力の下で、日本政府が実施しています。

ASEAN10か国の青年と船内で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行います。

東南アジア各国から選び抜かれた青年とのネットワークを構築するとともに、アジア地域の未来を担う人材の育成を図ります。

### [事業概要]

活動内容： ディスカッション活動、各国紹介、委員会活動、参加者による自主企画、表敬訪問、ホームステイ、課題別視察等

ディスカッションテーマ： ①防災と復興 ②多様性と社会的包摂 ③教育  
④雇用とディーセント・ワーク ⑤環境と持続可能性  
⑥健康とウェルビーイング ⑦情報とメディア  
⑧ソフト・パワーと青年外交 ⑨青年の起業

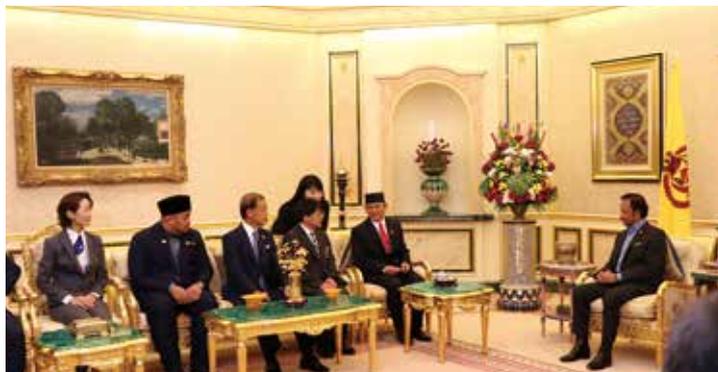
※2019年度の例

参加国： ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、日本

参加青年数： 日本参加青年40名程度、外国参加青年10か国280名程度

訪問国： ASEAN諸国4か国程度

運航期間： 11月～12月（40日間程度）



H.M. Peduka Seri Baginda Sultan Haji Hassanal Bolkiah Mu'izzaddin Waddaulah国王陛下に拝謁(ブルネイ)



ヤファ株式会社にてオフィス見学(情報とメディアグループ)

## ■参加青年の感想

私が内閣府青年国際交流事業の存在を知ったのは、2017年の夏、ミャンマーへ行く飛行機でした。たまたま隣に乗り合わせた日本人女性が世界青年の船の既参加青年で、彼女から**素敵な出会いや経験を沢山聞いて興味が湧き**、ミャンマーに着くや否や事業について検索したのを今でも覚えています。

今回の事業の中で私が学んだことは、「**対話の重要性**」です。東南アジア10か国と日本、異なるバックグラウンドを持つ青年たちとの交流は、決して容易なことではなく、言葉や価値観、文化の違いに何度も直面しました。

しかしある日、ファシリテーターのネリーが参加青年に送ったある言葉のお陰で、世界の見え方ががらりと変わりました。彼は、「相手のことを深く知ろうとしなさい。私たちは対話を通して、時に互いに共感し、時に誰かの苦しみを知る。事実を受け止め、多様性を知ること、固定概念を捨てるようになる」と言い、多文化交流における対話の重要性を教えてくれたのです。その時の私は、沢山の人のとの出会いの中で環境の変化に戸惑っているだけでした。彼の言葉をきっかけに、戸惑い、混乱するのをやめて、**目の前の人やその背景にある価値観に向き合い、対話を大切にすることを始めました。**

“Deep conversations” をキーワードに、キャビンメイトやSGメイトの外国青年や日本青年と、何気ないその日の出来事や、家族、宗教への考え、将来の話といった色々なことをより深く話す時間を作るようにしました。特に船のデッキで絶景の夕日を見ながら友達と話したあの風景は、忘れられません。印象的だったのは、ある日キャビンメイトと、過去のつらい経験や悩みについて話し、気付けばいつの間にか抱き合いながら泣いていたことです。国や宗教は違えど、心の中で同様のことに悩み苦しんでいる友達がいて、悩みや苦しみを共有しただけで、心が楽になり、互いの距離がぐっと近くなった気がしました。対話をきっかけに、相手のことを深く知っていくと同時に、**違いから自分の個性や考え方を認識**する過程を通して、私の価値観や世界が広がっていることを感じました。

事業前にはミャンマーにしか関心がなかった私ですが、対話を通して新たな発見が沢山あり、**事業を終えた今、東南アジアの全ての国がキラキラして見えます。**東南アジアの中のミャンマー、ASEAN と対日関係など、ミャンマーをより多角的な視点で見られるようになりました。1月から始めるミャンマーでのインターンシップでさらにミャンマーの社会や現状を見つめていきます。そして**いつかミャンマー、そして東南アジアと日本をつなぎ貢献できる人材になります。**



清水 万由 (2018年度参加)  
(写真右)



グエン・ティ・ミン・カイ高等学校にて現地青年と楽器を通じて交流する参加青年たち(ベトナム)



船内でのソリダリティー・グループ活動



平和な社会を構築するためにはなぜ教育が重要かについて発表する参加青年たち(サマリー・フォーラム/平和な世界をつくるための教育コース)

## 「世界青年の船」事業 Ship for World Youth Program (SWY)

1967年度開始の「明治百年事業」にルーツがある事業で、国際化や多様化が進展する社会でリーダーシップを発揮して、社会貢献を行うことができる青年を育成することを目的に実施しています。リーダーシップや異文化理解を、理論・実践の両面で強化することに重点を置いています。

毎年異なる世界10か国から集まる外国青年と、約1週間の陸上研修と約1か月間の船上研修(訪問国活動を含む)に参加し、共同生活をしながら、ディスカッションや交流活動を行います。

### [事業概要]

#### 活動内容:

ディスカッション、セミナー、ナショナル・プレゼンテーション(各国事情紹介)、文化紹介活動、スポーツ&レクリエーション、グループ活動、自主活動、表敬訪問、各種施設の視察、訪問国の青少年との交流など

#### ディスカッションテーマ:

- ①文化遺産の保護 ②グローバル・シティズンシップ
  - ③地球環境と気候変動: 行動と変化のためのツールを磨く
  - ④多文化共生 ⑤健康とウェルビーイング ⑥平和構築と国際協力
  - ⑦平等な社会におけるテクノロジー: 倫理的かつ責任あるソーシャルメディアとAIの活用
- ※2019年度の例

#### 参加国:

バーレーン王国、ブラジル連邦共和国、エジプト共和国、フランス共和国、英国、ケニア共和国、メキシコ合衆国、ニュージーランド、ペルー共和国、スリランカ民主社会主義共和国及び日本

※2019年度の例

#### 参加青年数:

日本青年120名程度、外国青年10か国120名程度

#### 寄港地:

ハワイ諸島、エンセナーダ(メキシコ合衆国西海岸)

※2019年度の例

#### 運航期間

1月~3月(35日間程度)



メディアインフルエンサーについてのポスター発表  
(グローバル・シティズンシップコース)



トルコ参加青年が主催したトルコ語クラブ

## ■参加青年の感想



椿 竜太郎 (2018年度参加)  
(写真右から4人目)

私は「世界青年の船」事業で、ヒト、組織の可能性を最大限広げるといった価値観の下、四つの活動を行いました。

一つ目は、自分自身を知るところをテーマにDream Mapというセミナーを実施しました。Dream Mapとは自分の夢を描き、人生を豊かにするためのツールです。セミナーでは日本参加青年5名のチームメンバーが一丸となり、年齢や経歴、価値観が異なる11か国の青年たちを巻き込み、「何を大切に軸として生きているか」について語る時間を作り上げることができました。人材育成に関心があるため、本経験を糧に、10年、20年後を作り出す若年層の気付きの場を作り出す活動を今後行っていきたいです。

二つ目は、自主活動で朝と夜にヨガのクラスを開催したことです。マインドフルネスに関心を持つ私が船上で必ずやり遂げたかったことがこのヨガのクラスの開催でした。本事業は、日本を含む11か国の青年たちと約40日間を衣食住を共にする刺激的なプログラムです。ただし、船上という閉鎖的な空間です。その環境下で、「今、この瞬間」という個人の時間を作り、癒し又は新しい気付きを得る環境を作りたいという思いがありました。朝日が昇る中のクラスと星空の下で行うクラスを実施でき、最終的には、Dream Mapを行う前に240人に向けた瞑想のクラスまで開催できました。**自分から発信し、環境を提供し、思いを実現することの大切さ**を学びました。

三つ目は、**日本の文化を世界に発信**するために担当したヲタ芸です。プライベートでは縁がなかった日本の文化の一つであるヲタ芸を、日本のナショナル・プレゼンテーションで披露しました。約4か月間の練習を通じて、よりリアルに近いものを作り上げ、現在の日本文化を海外の参加青年に提供できました。

四つ目の書道クラブでは、日本以外の10か国の青年たちに漢字を通して日本文化を理解してもらいました。参加青年の名前を漢字にして造語を作ることや好きな言葉を漢字で書き、乗船期間中のカレンダーを作成しました。さらに、参加青年が考える「日本を漢字に例えると何ですか」という問いへの答えを大きな半紙に描きました。また、書道クラブの担当メンバーがパフォーマンスを披露し、多くの参加青年たちに感動したと言ってもらえました。

本事業では、四つの活動を通して、**自分に自信を持てるよう**になりました。今後も、「今、この瞬間」という時間の使い方を大切にしながら、ヒト、組織の可能性を最大限広げるといった価値観を体現していきます。



レター・グループ対抗のスポーツ&レクリエーション



寄港地活動にてProvenance Artsを訪れ、先住民族の伝統文化を学習  
(ダーウィン/オーストラリア)



国際青年交流会議にて議論する参加青年たち

# 国際社会青年育成事業

## International Youth Development Exchange Program (INDEX)

内閣府の青年国際交流事業において最も歴史のある事業で、1959年(昭和34年)の上皇陛下の御成婚を記念した「青年海外派遣事業」、1993年(平成5年)の天皇陛下の御成婚を記念した「国際青年育成交流事業」に由来し、2019年のお代替わりを契機に、より現代のグローバル社会に沿った国際的視野を持つ青年の育成を行う事業として生まれ変わりました。

具体的には、欧州・アフリカ、北米・中南米、アジア・大洋州の各地域の課題をテーマに設定し、当該課題を抱える域内2か国に日本青年を派遣してマルチ・ケース・スタディを行い、現代の複雑化したグローバル社会に沿った国際的視野を持つ青年を育成することを目的としています。

### [事業概要(派遣プログラム)]

地域・テーマ： 欧州・アフリカ：「自国のアイデンティティと多文化共生」

北米・中南米：「災害対策」

アジア・大洋州：「東南アジアと日本の労働社会(実務教育・職業訓練)」

※2019年度の例

活動内容： テーマに基づく視察、現地青年との合宿ディスカッション、日本文化紹介、国際協力活動の体験、ホームステイ等

派遣国： 欧州・アフリカ：オーストリア共和国とリトアニア共和国

北米・中南米：メキシコ合衆国とペルー共和国

アジア・大洋州：フィリピン共和国とベトナム社会主義共和国

※2019年度の例

参加青年数： 12名程度×3地域

派遣期間： 9月～10月(18日間)

※派遣プログラム後の国際青年交流会議にて、招へい国青年と交流・討論

### 【参考】招へいプログラム

招へい国： オーストリア、リトアニア、メキシコ、ペルー、フィリピン、ベトナム

招へい期間： 10月頃(16日間)

招へい青年数： 8名程度×6か国



Ines Stilling女性・家族・青年大臣を表敬訪問(オーストリア)



GK Encharmed Farm Innovations (低所得者の起業支援をするNGO)を訪れ、労働者に質問する参加青年(フィリピン)

## ■参加青年の感想



入江 さくら

(2019年度参加、メキシコ・ペルー派遣団)

国際社会青年育成事業 (INDEX) では、各団が**派遣国に関連したテーマを持って派遣に臨みます**。私の参加した**メキシコ・ペルー派遣団のテーマは、「災害対策」**でした。派遣中は、現地の国家災害対策本部や、世界トップレベルの研究施設を訪れました。私には、海外青年とのディスカッションを始めとしたこの**事業での経験から得た大きな学びが二つ**あります。

一つは、自国の取り組むべき社会問題はもはや地球規模で取り組む課題に変わってきており、**世界との協働が不可欠**だということです。災害対策を例に挙げても、現代では、気候変動や異常気象によって自然災害は深刻さを増し、過去に自然災害が起っていた国だけでなくどの国でも災害が起こりうる状況にあります。よって、国家間で協力し、技術や経験に富んでいる国がその知識を世界と共有し、活用する必要があると感じました。派遣中、特に印象的だったのが、ペルーでJICAを訪問した際、現地駐在職員の方がおっしゃっていた、「**一方的な支援だけでなく、相手国の状況と意思決定を尊重し、継続的で自立的な**

**支援を心掛けている**」という言葉です。日本が支援をする際、日本の持っている技術や仕組みを相手国に導入すれば、効果的で簡単かもしれません。ですが、現地の仕組みを用いたり、現地に合う提案をしたりと一見遠回りに見えるような施策は、長期的な視点で自立を促す取組です。この視点は、**世界が協働して問題を解決していく中でとても大切な価値観**だと感銘を受けました。

二つ目に、特に外国青年とのディスカッションを通じて強く感じたのは、「**YOUTH POWER**」の存在です。日本語にすると、**社会に対して変化をもたらす、社会に対して変化を訴える「若者の力」**となるでしょう。ディスカッションでは、特に一人一人が「**YOUTH**」として何ができるかにも焦点を当て、議論を進めていきました。ディスカッションに参加していた青年の中には、強いオーナーシップ（自分自身の課題として情熱と責任感を持って取り組む姿勢）を持って課外活動に参加したり、団体を立ち上げたりする人がいたこともあり、「**青年同士が国を超えて結束すれば、社会を変えることができるのでは**」、そう思わせてくれるほど、**議論の場は、熱意と、変革への希望に満ちあふれていました**。私たち若者自身が、問題に対して行動を起こさなければ、何も始まらないと強く感じました。

事業が終了してからも、プログラムを通じて得た数々の学びと経験を基に、次のステップへつなげてゆく決意です。



UNAM(メキシコ国立自治大学)地球物理学研究所にて、説明を受ける参加青年たち(メキシコ)



リトアニア青年に日本の茶道を紹介する参加青年(リトアニア)



宝鶏工作機械グループ有限公司にて、「一帯一路」について意見交換をする参加青年たち(宝鶏)

## 日本・中国青年親善交流事業

### Japan China Youth Exchange Program

「日本・中国青年親善交流事業」は、1978年の日中平和友好条約の締結を記念し、1979年から開始された事業で、日本・中国両政府が共同で実施しています。

日本と中国の青年が相互に相手国を訪問し、文化紹介やホームステイを通じた交流とともに、ビジネス環境・就職・ボランティアの状況などについて、両国の共通点や相違点などを掘り下げて考える機会ともなる大学生との意見交換、グローバルに飛躍をとげる中国の先進企業を訪問、起業をめぐるビジネス制度等に関連する施設の訪問等を行います。

#### [事業概要(派遣プログラム)]

活動内容： 文化紹介、ホームステイ(又はホームビジット)、地球環境問題、産業、教育、社会福祉、中国の起業をめぐるビジネス制度等に係る関連施設の訪問、中国の青年等とのディスカッション、政府機関等訪問

訪問地： 北京市、河南省、浙江省

※2019年度の例

参加青年数： 25名程度\*

派遣期間： 11月頃(12日間)

\*団長、副団長、渉外を含む派遣青年数は30名程度

※招へいプログラムや派遣プログラムにおける夕食交流会にて、中国招へい青年と交流・討論

#### 【参考】招へいプログラム

招へい期間： 10月頃(12日間)

招へい青年数： 30名程度(団長・副団長を含む)



中華全国青年連合会を表敬訪問(北京)



日中青年友好フォーラムで「日本人と中国人」をテーマにディスカッション(北京)

## ■参加青年の感想



二口 朝香 (2018年度参加)

「一帯一路」とは何か、という質問に、あなたは答えることができますでしょうか。私は答えることができませんでした。この事業に参加する前は、

事業への参加前、私は政治や経済、世界情勢について興味がありませんでした。「難しく、私には理解できない」という諦めがあったからです。派遣の事前準備として、世界情勢の勉強はしましたが、勉強すればするほどにその難しさを実感し、世界を学ぼうという気持ちは閉ざされたままでした。

しかし、**実際に中国に派遣され**、政府機関を訪問し、中国の人々と交流したことで、**私の意識は少しずつ変わりました**。中国の領土に立ち、中国の人々と目を合わせて話をし、彼らの口から、政治の話を聞く。そこには、テレビや新聞といったメディア越しではない、**ありのままの中国の姿**がありました。そして、政治という難しい話題の向こう側にあるのは、普通の人々の暮らしであり、自分の生活の中にも政治が根付いているのだと分かりました。

日本と中国の関係は複雑で、様々な壁が存在します。そんな中で中国という国に飛び込み、**中国側の目線から話を聞いた**ことは、とても新鮮な経験でした。また、中国の政治情勢を知ったからこそ、日本政府はどうか考え、方針を立てているのか、日本の政治を知りたいと思いました。

国家の問題である以上、日中関係の対立において、「何が正しいか」というのは果てしない問いです。中国側の意見を知った今だからこそ、その難しさを実感しています。私は、日本側、中国側、それぞれの立場を踏まえ、日本人という枠組みだけにとらわれない、**幅広い視野で物事を見ることのできる人になりたい**と思います。

また、この事業を通して、**自分の限界が広がりました**。以前の私は、自分の意見を伝えることが苦手で、大勢の前で主張したり、何かを披露したりすることはとてもできませんでした。しかし、この事業では、中国青年とのディスカッション、日本文化紹介のためのパフォーマンスなど、積極的に前に出て、表現することが求められます。初めは、私にできるはずがないと思っていましたが、派遣活動の中で日々出会う課題を乗り越えていくうちに、気が付けば、**主体的に行動し、堂々と人前で話すことのできる自分**がいました。

この事業を通じて、「できない」と最初からあきらめて消極的になってしまっていた自分の殻を破り、**「やってみればできる」**自分を見つけることができました。

この事業に興味を持ち、この文章を読んでくださっている方は、どこかで「自分を変えたい」と思っている方が多いのではないのでしょうか。この事業には、**自分を変えるあらゆるチャンス**が散りばめられています。



史家胡同博物館での太極拳文化講座(北京)



西安国際港務区規画館を視察(西安)



日韓青少年交流会にて記念撮影する参加青年たち

## 日本・韓国青年親善交流事業

### Japan Korea Youth Exchange Program

「日本・韓国青年親善交流事業」は、1984年の日韓両国首脳会議における共同声明の趣旨及び1985年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、両国政府の共同事業として1987年から友好の象徴として実施している事業です。

文化紹介やホームステイを通じた交流、地球環境、産業、文化、教育、社会福祉等の各種施設、先進企業の訪問や韓国青年とのディスカッション等を行います。これらを通じて、日韓関係の将来に向けたありようについて踏み込んで考え、どのような領域で青年たちが貢献できるのかを考えてゆく機会ともなります。また、日本に招へいした韓国青年と日本青年との「日韓青年親善交流のつどい」(合宿型ディスカッション・文化交流プログラム)等を行っています。

#### [事業概要 (派遣プログラム)]

活動内容： 文化紹介、ホームステイ、地球環境問題、産業、文化、教育、社会福祉等の諸事情の研究、関連施設の訪問、韓国青年との合宿ディスカッション・プログラム

訪問地： ソウル、全州、金堤、天安、水原、加平 ※2019年度の例

参加青年数： 25名程度\*

派遣期間： 11月頃 (15日間)

\*団長、副団長、渉外を含む派遣青年数は30名程度

※ 日本での「日韓青年親善交流のつどい」や韓国での「日韓青少年交流会」にて、韓国招へい青年と交流・討論

#### 【参考】招へいプログラム

招へい期間： 9月頃 (15日間)

招へい青年数： 30名程度 (団長・副団長を含む)



韓国政府女性家族部を表敬訪問



日韓青少年交流会の討論会

## ■参加青年の感想



須摩 彩 (2019 年度参加)  
(写真 2 列目左から 2 人目)

韓国派遣の中で一番記憶に残っているのは「日韓青少年交流会」です。これは1泊2日で日本青年と韓国青年が寝食を共にしながら文化交流や討論会を行うプログラムです。

初日の文化交流の夕べでは日韓両国の青年がそれぞれダンスや歌、クイズを準備し、披露しました。私たちはなかなか全員そろっての準備ができなかった上、初めて人前で披露するということもありとても緊張していました。しかし、韓国青年がダンスに急ぎょ飛び入り参加するなど、積極的に参加してくれたおかげで私たちは自信を持って楽しく披露することができました。そして**音楽というものは言語の壁を越えた世界共通語**なんだと改めて感じました。ずっと笑いに包まれていた文化交流の夕べはもう1回体験したいと思えるほど本当に楽しかったです。

また2日目の討論会では、「多文化共生」というテーマの下、私は労働について議論をしました。それを通して日本の「技能実習生」が働く苛酷な労働環境の実態を再確認し、韓国では「技能実習生」という言葉は存在しないもの同様な問題を抱えていることがわかりました。そこから

「私たち青年ができること」として外国人労働者が情報に触れやすくするための多言語でのサイト運営などを提案しました。前日の文化交流の夕べとは打って変わって真剣な雰囲気全員が議論に取り組み、そのトピックから自分たちができることをグループ全員で考え、プレゼンテーションを行いました。議論が難航するときもありましたが、意欲的に発言をし、他の人の発言をきちんと聞くことで議論の終着点を少しずつ見いだすことができるようになりました。この討論会は韓国のことはもちろん、**自国のことについてもきちんと知る良い機会**となりました。

「日韓青少年交流会」のための準備はとても大変でしたが、その分とても有意義な時間になりました。そして私たちは短い時間でしたが、別れを惜しむほど仲良くなり、まるで前から知っていたかのような友人になることができました。**この事業は私にとって出会いと学びがあふれているもの**でした。日韓問わず一生の友人がたくさんできました。私たちは住んでいる場所は決して近くはありませんが、様々な媒体を通して私たちの団テーマである「情で笑顔の“わ”を広げる」のようにコミュニケーション（話）をとりながら笑顔（笑）、日本の心（和）、つながり（環）をこれからも大切にしていきたいです。



国立中央青少年修練院にて体験活動



華城行宮を訪ねる参加青年たち



社会保健省にて、プレゼンテーションを行う参加青年たち(フィンランド、2018年障害者分野)

# 地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」 Community Core Leaders Development Program

多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し支え合う「共生社会」を地域において築いていくためには、住民や非営利団体、行政機関等による取組の充実が必要です。

各地域で高齢者、障害者、青少年関連の課題解決に向けた取組に携わる日本青年を、3分野において特色のある事例を有する3か国に派遣する、専門職・組織マネジメント経験者向けの事業です。各国で同じ分野で働く同世代の若者との交流や政府機関・関連団体及び施設の訪問や意見交換等を通じて、国内外に広がる人的ネットワークを形成し、社会課題解決能力を高めます。

派遣国では、同様の課題解決に取り組む専門家との交流を促し、組織の運営、関係機関との連携、人的ネットワーク形成に必要な実務的能力の向上を目指します。また帰国後は、日本に招へいされた外国青年と一堂に会してNPOマネジメントフォーラムに参加し、外国青年とのディスカッションを通じて、日本の地域社会における課題解決に向けて中心的な担い手となる青年リーダー（コアリーダー）の育成を目指します。

## 【事業概要（派遣プログラム）】

- 活動内容： 先進的、特徴的な社会活動現場、関連施設等の訪問と意見交換、ホームステイ（家庭訪問）
- テーマ： 高齢者分野 「高齢者の自立支援に必要な連携」  
障害者分野 「地域における障害者の社会参画の更なる拡大」  
青少年分野 「子供・若者の育成支援に関わる人材の養成」 ※2019年度の例
- 派遣国： オランダ（高齢者分野）、イタリア（障害者分野）、フィンランド（青少年分野） ※2019年度の例
- 参加青年数： 8名程度×3か国
- 派遣期間： 11月（10日間） ※2019年度の例
- ※派遣プログラム後に東京で開催する「NPOマネジメントフォーラム」にて、招へい青年と交流・討論

## 【参考】招へいプログラム

- 招へい期間： 11月～12月（15日間） ※2019年度の例
- 招へい青年数： 8名程度×3か国



リヴェ職業訓練学校にて生活訓練コースの説明を受ける参加青年たち  
(フィンランド、障害者分野)



ドルトムント認知症センターにて、認知症に関する啓発ポスターの紹介を受ける参加青年たち(ドイツ、高齢者分野)

## ■参加青年の感想

「**教育と児童福祉の連携を探りたい**」これが私の応募動機でした。私は公立高校で教員をしています。実際、教員をしていると様々な生徒に出会います。当然、経済的に厳しい家庭の生徒もいます。中には必要な福祉サービスにアクセスできていないと思われる家庭もあります。

その解決に向けて各地で実践されつつあるものの一つが「**スクールソーシャルワーク**」です。これは主として福祉の分野において実践されてきたソーシャルワークという手法を学校に適用させ、教育と福祉の連携を強化しようという取組です。しかし、日本でその取組は緒に就いたばかりであり、これから教育と児童福祉を連携させるためにも、その連携に**積極的に取り組む国を見てみたい**。そんな思いでニュージーランド派遣に応募しました。

実際に派遣で伺ったハット・バレー高校には、学校には教員以外にもカウンセラーやユースワーカーが常駐しており、生徒の様々な課題に対応できる体制が整えられていました。スクールソーシャルワーカーという職種の者はいませんでした。ユースワーカーが各機関との連携など、その役割を担っているようでした。生徒にとっては、身近に相談できる大人が教員以外に存在することは安心感になり、問題の早期発見につながるだろうと感じました。

また、カピティ・ユース・サポートやバイブという若者支援のワンストップショップのNPOは、若者支援の一次的な総合受入窓口であり、若者はこのNPOを訪ねれば、受け入れてもらえる上に、必要なサービスにつなげてもらうことができるというものでした。このようなNPOは日本ではまだ少ないかもしれませんが、スクールソーシャルワーカーの役を担う**NPOと学校が連携するということも考えられるのではないか**、そのようなことを感じさせました。

この派遣全体を通じて言えることは、ニュージーランドの青少年育成事業には**驚かされるばかりだった**ということです。**教育と児童福祉が連携しているというよりも、最初からそれらは一体であるという印象**でした。まさに「青少年育成」という言葉がピッタリとはまり、子供や若者、現場の声が大切にされている姿勢に日本が学ぶところは大きいように感じました。

また、この事業に参加して、学校教育以外の青少年育成に携わる団員と意見を交わしながら、ニュージーランドの青少年育成に触れることで、**普段当たり前に思ってきた自身の活動を相対化**することができ、学びの濃い時間を過ごすことができました。このような貴重な機会をくださった関係者の皆様、派遣団団長と仲間感謝いたします。



渡邊 大介

(2018年度参加、ニュージーランド派遣団、青少年分野)  
(写真2列目右から4人目)



ウェリントン工科大学にて、ユースワーク学士課程の紹介を受ける参加青年(ニュージーランド、青少年分野)



シャルロテンブルク=ウィルマースドルフ介護支援センターにて、ケースマネージャーによる説明を受ける参加青年たち(ドイツ、高齢者分野)

# 事業参加後も広がる活動の輪！～事後活動～

## IYEOとは？

1959年から始まった内閣府の青年国際交流事業に参加した青年たちが、国際理解を深め、事業で得た学びを広く社会に還元することを目的として、自主的に発足させた同窓会組織が「日本青年国際交流機構」(IYEO: International Youth Exchange Organization of Japan)です。IYEOは47の全ての都道府県で自主的な団体を組織して、幅広い活動を展開しています。



IYEOマスコットキャラクター「ランナス」  
走る(RUN) +地球(EARTH)

### コンセプト

IYEOには日本全国のみならず国境を越えてたくさんネットワークがあり、青少年の育成を基盤としながら様々な社会貢献活動に取り組んでいます。ランナスは、地球自体が走り回るかのようにいきいきと活動するIYEO会員を表しています。船の帽子と飛行機の鞆を身につけて、今日も笑顔で走り続けます。

## 47都道府県 8ブロックで活動中!

<各都道府県IYEOの主な活動>

- ・ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)
- ・内閣府青年国際交流事業で招へいされた外国青年への地方プログラム
- ・事業説明会での体験談発表等を通じた内閣府青年国際交流事業の広報
- ・都道府県独自の国際交流・地域貢献プログラム

## IYEOではどんな活動ができる？

IYEOは、「社会でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指して」を活動方針に掲げ、①青年層の活性化の基盤づくり、②地域社会を活性化するとともに地域に貢献できる人材育成、③国際ネットワークをいかした国際協力活動を柱に様々な活動を展開しています。

① 青年層の活性化の基盤づくり

② 地域活性化・地域に貢献できる人材育成

③ 国際ネットワークをいかした国際協力活動

## ① 青年層の活性化の基盤づくり

IYEOは、国際交流への知見・経験をいかし、青年の「やりたい」を実現する、社会活動の場づくりと環境整備に取り組んでいます。

### 地元青年と外国青年との国際交流プログラムの企画・運営

内閣府の青年国際交流事業に参加するために招へいされた外国青年の地方プログラムを各都道府県IYEOの実行委員会が中心となって企画しています。地元青年やホームステイのホストファミリーにとっては、日本にいなから国際交流ができる貴重な機会です。自分たちの内閣府事業での参加経験を胸に、日本の次の世代や地元の人たち、そして日本に来た外国青年双方に国際交流のすばらしさを伝え、「参加してよかった」と思えるプログラムになるよう、休日に時間を忘れて企画会議をすることもしばしばあります。

また、各都道府県の独自の活動も盛んで、内閣府事業の枠を超えて、日本在住の外国人と地元住民との交流を企画・運営するIYEOもあります。



内閣府事業地方プログラム実行委員会  
(神奈川県IYEO)



English Café(長野県IYEO)

### IYEOオリンピック・パラリンピック ボランティアチーム

パラリンピックはオリンピックと比較して、まだまだ認知度が低く、競技によってはスポンサーが付きにくく、選手自身がエントリー費用や渡航費を支払って、国際大会に参加している厳しい現状があります。IYEOオリパラボランティアチームは「あなたが創るBorderlessな社会」をテーマとして活動を続けています。「オリパラ」という名称ですが、同大会に限らず、肢体不自由者卓球協会(PTTA)の新人研修で英会話レッスンを実施したり、ジャパンオープンでアテンド通訳ボランティアとして協力しています。



パラ卓球ジャパンオープン2019東京大会  
での支援活動



IYEOオリパラボランティアチーム

### IYEO自主活動サポート助成金制度(チャレンジファンド)による 会員のボランティア活動の啓発・促進

「チャレンジファンド」は、IYEOの人的活力をより社会に提供すること、また団体として活性化を図ることを目的として2011年に創設されました。IYEO会員が自主的な国際交流活動を実施する際に、その活動資金の一部を助成しています。

例えば、2018年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」への復興支援活動の一環として、被災地の方へ憩いの場を設けることや、各被災地を訪問する、北海道IYEOの「Visit胆振」の取組に助成されています。

詳細はこちらを御覧ください。

⇒URL:<https://www.iyeo.or.jp/ja/profile/challengefund.html>



Visit胆振(北海道IYEO)

## ②地域活性化・地域に貢献できる人材育成

内閣府の青年国際交流事業で得た経験を社会に還元するのは、国際交流を通じてのみではありません。IYEOは、地域活性化・地域貢献の観点から、様々な活動を行っています。

### 全国大会・ブロック大会（青少年国際交流を考える集い）

内閣府、地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の既参加者、国際交流に関心のある青少年等が、事後活動の情報交換、地域・職場等における事後活動の促進等についての議論を行うことを目的に、年に1回、「全国大会」を、また、全国8ブロックに分かれて**ブロック大会を開催し、近隣都道府県の連携も図っています**。これらは、**直近の事業参加青年の今後の事後活動を行うに当たっての研修の役割**もあります。

#### 実行委員会の声（2019年度北海道・東北ブロック大会）

石巻を代表する人材育成と地域活性化を実施している湊水産株式会社の取組を通して、震災をどのように乗り越え、復興を成し遂げてきたか、震災後、社屋の再建を機に始めた体験型食育プログラムがなぜ人づくりや地域づくりにつながっているのか、企業として人材育成をするために意識していることは何かを、講話と食育プログラムの体験を通じて学びました。



ブロック大会での震災復興・食育を学ぶ講話・体験型プログラム(宮城IYEO)

#### 参加者の声

- ・食育の大事さ、企業における保育園の意義について参考になりました。従業員を大切にする姿勢を学びました。
- ・地域に密着した企業の在り方、組織の在り方を知ることができました。
- ・意見交換会でそれぞれの意見を出し合い、なるほどと思うこともありました。ただ参加して終わりではなく、振り返って考えることがまた一つの学びになると感じました。

### 2019年度ブロック大会（青少年国際交流を考える集い）一覧

ブロック	開催県	日程	テーマ
四国	徳島県	7/20-21	ともに学び、ともに育ち、ともに生きる～徳島から広げよう、世界と繋がる力～
北海道・東北	宮城県	7/27-28	震災復興から学ぶ人づくりと地域づくり
近畿	京都府 (全国大会)	8/24-25	『不易流行』～古都の伝統を基軸とした新たな挑戦～
北信越	福井県	10/19-20	世界に打ち出そう、日本一幸福な福井県の魅力を！ ～世界規模の視点で再発見された地域の魅力を改めて世界へ発信することで、国際交流と地域活性化をさらに強めていける人材の育成を目指して～
中国	山口県	10/26-27	「災害復興支援から見てくるもの」山口県周防大島からの発信～地域交流を通じた外国人材への働きかけと地域人材の活躍と未来展望～
関東	群馬県	11/9-10	ぐんまからの発信～青少年が夢を描ける魅力的な街づくりについて～
九州	沖縄県	2020年 1/25-26	沖縄でつくる・沖縄から広がる“おっきな輪”
東海	愛知県	3/14-15	Challengers Summit in TOKAI ～日本の中心の挑戦者たち～

### 大規模災害復興支援活動

IYEOと緊密な関係のある国内外の機関等が、大規模な災害等により罹災した時に、IYEO会員からの募金により、速やかな支援を図っています。

例えば、2018年に発生した西日本豪雨の際には、被災県のIYEO会長と連絡を取り、各県の会員の被災状況を確認した上で、募金を開始しました。

この募金に対しては、ソロモン諸島、スウェーデン、ウクライナ、ブルネイの事後活動組織からも支援が届きました。集められた募金は、被災県のIYEOが把握したニーズに合う企画を提案し、そのニーズに対応する支援に充てられています。



2018年の西日本豪雨による被害に対する支援活動(広島県IYEO・岡山県IYEO(岡山青年国際交流会))

## ③ 国際ネットワークをいかした国際協力活動

内閣府の青年国際交流事業に参加した青年は日本人のみではありません。約60年の長い歴史の中、既参加青年たちは世界的な人的ネットワークを形成・発展させています。

### IYEOの国際ネットワーク



#### 1. 「東南アジア青年の船」事後活動組織 : SSEAYP International

「東南アジア青年の船」事業 (SSEAYP) の参加11か国では、IYEOと同様に活動団体を組織し、各国において各種の国際交流活動及び青少年健全育成活動等に寄与しています。SIはSSEAYPIに参加することで得られた友情の永続・発展を図るとともに、国際交流活動及び社会貢献活動などにより、各国事後活動組織の活動を展開することを第一の目的としています。年に1回、各国持ち廻りでSIGA (SI総会) が開催されています。



2019年4月にブルネイで開催されたSSEAYP  
インターナショナル総会の様子

#### 2. 「世界青年の船」事後活動組織 : SWYAA International

「世界青年の船」事業 (SWY) の既参加青年による事後活動組織で、事業で培われた精神の継続を目的に、SWYAA (SWY Alumni Association) Internationalを設立しています。正式加盟国29か国、準加盟国6か国が登録 (2019年12月時点) し、非加盟の関係国と合わせて65か国が連携しながら、各国で社会活動を展開しています。年に1回、活動が活発な国でSWYAAGA (SWYAA国際大会) が開催されています。



2019年9月にロシアで開催されたSWYAA  
国際大会の様子

#### 3. 日韓交流連絡会議

日本・韓国青年親善交流事業に参加した日本・韓国両国の既参加青年は、派遣年度や国を越えた既参加青年ネットワークをいかし、日韓交流の更なる発展を目指して、毎年1回、パネルディスカッションやレクリエーションを交えた、日韓交流連絡会議を開催しています。



2019年2月に韓国で開催された日韓交流連  
絡会議の様子

### 国際会議やフォーラムに参加する日本代表青年を推薦

IYEOでは、内閣府と協力し、各国政府、国際機関などの要請に基づき、会員である内閣府の青年国際交流事業に参加経験のある青年から、日本代表青年として会議やフォーラムに派遣しています。

<派遣実績 (2019) >

- ・ 北方四島交流訪問事業
- ・ International Conference on Cohesive Societies (シンガポール)
- ・ ASEAN+3 Youth Digital Business Summit (マレーシア)



International Conference on Cohesive Societiesの様子

## ◆事業参加の流れ

### こんな人にお勧め!

- ・国内外の青年とネットワークを形成したい人
- ・国際交流を通じた社会貢献を志す人
- ・実践的なコミュニケーション能力、リーダーシップ、異文化対応力を高めたい人

### 応募

1月下旬～3月

各都道府県の青年国際交流主管課又は全国的な組織を持つ青少年団体へ参加申込書と作文を提出

※年齢条件：18歳～30歳であること

(募集年度の4月1日時点。ただし、「地域コアリーダープログラム」は23歳～40歳)

### 選考

3月～6月

#### 第1次選考(3月～4月)

各都道府県、青少年団体が定める選考試験を受験

#### 第2次選考(5月～6月)

内閣府が、第1次選考の結果に基づいて第2次選考試験の受験者を決定し、実施

### 事前研修

6月～9月

第2次選考試験合格者は、事前研修に参加し、事業の趣旨、内容、訪問国等についての理解を深め、必要な諸準備を行う。

### 事業参加

出発前研修 → 事業参加 → 帰国後研修・報告会 → 事後活動研修

### 事後活動

内閣府青年国際交流事業の事後活動組織「IYEO」が、47都道府県で団体を組織し、幅広い活動を展開しています。その仲間に加わることによって、興味・やる気次第で国際社会・地域社会に貢献するチャンスが広がっています。

### 内閣府青年国際交流事業

詳しくはこちら URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

内閣府青年国際交流

検索



### 青年国際交流2020 「新しい“道”を私がデザインするために」

発行日：2020年1月16日

発行：内閣府青年国際交流担当室

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館8階

TEL：03-6257-1434 FAX：03-3581-1609 URL：<https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集：一般財団法人青少年国際交流推進センター

(Center for International Youth Exchange) URL: <http://www.centerye.org/>

編集協力：日本青年国際交流機構

International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) URL: <https://www.iyeo.or.jp/ja/>